

# らしんばん



## 議会報告

令和元年 6月議会号



発行日 / 令和元年 7月 30日

発行：静岡県議会議員 鈴木すみよし事務所

### 目次

ハイライト	P1
1. 県議会6月定例会開催	P1
2. 常任委員会「厚生委員会」での主な論戦から	P2
3. 「しずおか元気旅」の発行	P2
4. 子どもを交通事故から守るために	P3
5. NPO法人の課題とこれから	P3
6. 視察・研究報告、国へ提出される意見書	P4
7. 地域の課題と進捗状況、ホットなつぶやき	P4

## 1. 県議会6月定例会開催 (6月19日～7月8日まで開催)

県議会議員として3期目がスタートしました。初心に立ち返り、また中堅議員としての自覚のもと、現場主義を徹底して県民の負託にしっかり応えるよう精進してまいります。

県議会6月定例会では、6月補正予算のほか、地方公務員法および地方自治法改正に伴う関係条例の改正、豚コレラ対策や警察関係の特殊勤務手当に関する条例改正、自動車税の税率や法人事業税税率に関する条例改正、消費税法改正に伴う条例改正、公共事業契約のほか、人事案件などが審議されました。

補正予算額は4億6千2百万円で、主な内容は、子どもの安全確保対策、豚コレラ対策、社会健康医学大学院大学の開学に向けた施設整備等、旧優生保護法一時金支給等事務、サクラエビ主産卵場調査費となっています。

これらは、このところ大きな社会問題となっているものばかりで、議会での活発な論戦が交わされました。

**子どもの安全保護対策**では、小学生を対象とした体験型防犯講座の開催。私立幼稚園や児童福祉施設等、県立特別支援学校等の安全確保対策。通学路・通園路等の合同点検結果を踏まえた安全対策。犯罪の発生件数等が多い地区の防犯カメラの試行的増設などがあります。最近の子どもが巻き込まれる重大犯罪や交通事故への緊急対応が盛り込まれました。

**豚コレラ対策**では、隣接する愛知県や岐阜県内で発生が増えていることから、県内での豚コレラの発生を予防するための緊急措置を実施します。特に、豚コレラに感染したイノシシは愛知県などで543頭確認されており、本県まで33kmのところまで近づいています。

また、銘柄豚などの研究を実施している「中小家畜研究センター」は、国の飼養衛生管理基準に基づき、防疫体制を強化することになりました。さらに、豚コレラが発生した後の殺処分や移動制限などの影響を受けた養豚農家の経営再建・維持の支援体制も盛り込まれています。

### ハイライト



大淵笹場のお茶まつりでは餅つきで来場者をもてなした。私も技を披露。富士山と茶園が見事。



世界お茶まつりのオープニングセレモニーにて。今年は、ブラジル総領事やタイの茶を扱う商社も出席。



富士工業技術センター内に誕生した、ふじのくにCNF研究開発センターと静岡大学CNFサテライト。



日本ライフセービング協会の公益財団法人化セレモニーに出席。県富士水泳場活性化の協力者。



吉原商店街の中心市街地活性化の旗印、「TMO(タウンマネージメント)吉原」の総会に会員として出席。



夏の風物詩、吉原祇園祭の山車も年月を経て修理が必要に。文化庁などの支援獲得に東奔西走。

今年度は、県議会厚生委員会副委員長 県医療審議会副会長 党県連組織委員長等に就任

最新の活動情報をブログで配信中。



## 2. 常任委員会「厚生委員会」での主な論戦から

**児童福祉施設等緊急安全確保対策事業で実施する保育所等職員及び保護者向け防犯講座の内容と期待される効果については**、不審者に狙われないような施設づくりや緊急時に子供を守る行動など、防犯のために必要な知識の習得を図るため、東部・中部・西部の3箇所で開催する。大津市の交通死亡事故や川崎市の殺傷事件の発生を受け、オール静岡で子供の安全確保に取り組むべく、市町や民間等の関係者が共通認識を持つことが第一であり、それぞれの立場における安全対策を共有して安全確保につなげていきたい。

**社会健康医学大学院大学は**、県民の健康づくりをサポートしてきた医師、看護師等を主な対象に、現場で直面した課題を解決する能力の開発やリーダーシップを発揮するための教育を行う。疫学など公衆衛生の主要領域に関する科目のほか、実務活動での指導に役立つコミュニケーション関係や、本県独自のゲノム、聴覚関連科目の設定を想定し、修了後は現場に戻り、科学的知見に基づく健康増進等に指導的立場で取り組むことを期待する。今回設置する大学院大学は、県民の健康寿命の延伸に資する研究を行い、成果を還元するため、独自の運営方針に基づき最先端の研究を担う研究員を招聘し、魅力ある環境を提供するために新たな法人を設立する。

**民生委員・児童委員を補佐する協力員制度の導入に向けた課題は**、協力員制度の導入に際し、制度の仕組みや規程づくり、民生委員と協力員の役割分担、活動経費の予算措置、個人情報取り扱い等を整理する必要があり、また、市町や各地区の協議会等の関係団体とともに、民生委員自身の理解、協力を得ることも必要となる。なお、協力員制度としては、民生委員の家族や民生委員OBが伴走者となるペアサポーターと、社会福祉士や看護師などの有資格者が助言者となるエリアサポーターの2つの形を検討する。

そのほか、●来年4月に開設する発達障害者支援センターの運営方法、●地域間の医師の偏在解消に向けた取り組み、●児童相談所職員の専門性向上及び体制強化に向けた取り組み、●ふじのくにネットの運用状況と今後の展開、●若者に対する薬物乱用防止に向けた取り組み、●SNSを活用した自殺防止対策の事業効果についても質疑等があった。

**がんセンター局関係**では、今年2月に公開した処方別がん薬物療法説明書を作成した目的と有効な活用方法について、がん治療において薬物療法は手術、放射線と並んで主要な治療手段であるが、多くの患者が通院しながら薬物療法による治療を受けており、患者自身や家族が自宅等で副作用に対応しなければならない。これまで製薬会社は、薬ごとの副作用に関する資料は作成していたが、複数の薬品を組み合わせる治療を行う際の副作用の資料は作成されていなかった。そこで、がんの種類に応じて使用する薬剤の組み合

わせごとにごがん薬物療法説明書を作成したことで、医師、看護師、薬剤師等が同じ冊子に基づき患者に説明することができるほか、患者や家族が副作用への対処法、予防策を知り、がんの薬物療法に対する心構えができるようになった。このような取り組みは、全国的に例がない。

そのほか、●手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の有効活用状況などについても質問等がありました。

## 3. 「しずおか元気旅」の発行

本県の重点施策の一つに観光振興があります。富士山世界遺産や伊豆半島ジオパーク、東京2020オリンピック・パラリンピック開催等を契機に、**国内外から多くの観光客が訪れることが予想され、その誘客活動が活発化**しています。

平成29年度の本県への観光交流客数は、1億5,648万人で、5年連続で過去最高を記録するデータが、本県への観光の関心の高さを物語っています。様々な観光資源や、またとない機会を活用して更なる観光振興を進めるチャンスが到来しています。

4月から6月までの3ヶ月間、JRグループ6社と静岡県をはじめ県内関係自治体、観光事業者などが一体となって取り組む、国内最大級の観光キャンペーン「**静岡デスティネーションキャンペーン**」(静岡DC)が開催されました。このキャンペーンはJRグループのネットワークを活用し、全国の駅などに本県の数多い魅力や今回のために用意された旅行メニューなどを記したポスターやチラシなどを配置し、情報を発信しました。昨年(プレイベント)、本年(本番)、来年(アフターイベント)の3年間実施するもので、この取り組みにより、静岡DCが終了した以降も、この経験を生かして観光振興を進めていくとしています。



静岡DCの一環で用意された

**イベントガイドブック「しずおか元気旅」**は、昨年のプレイベントでも用意されましたが、今回発行のガイドブックはさらに見やすく、豊富な内容にバージョンアップされています。

特徴は、「**静岡をとことん楽しむ!**」として、静岡で元気になる**「6つのテーマ」**を紹介しています。

「しずおか元気旅」第2弾の表紙。内容はさらに充実した。

- 1.「富士山」、2.「パワースポット」、3.「歴史文化」、4.「アクティビティ」、5.「風景」、6.「食」です。

これ1冊で静岡をまるごと楽しめそうで、是非とも多くの人に入手していただき、保存版として活用していただきたいと思えます。

## 4. 子どもを交通事故から守るために

最近の交通事故のニュースには目を覆いたくなるような悲惨なものばかりで、加害者や被害者になり得る一人として、改めて安全運転には気を引き締めなければならないと感じています。まずは、交通ルールを守ることを徹底することが誰にも



富士由比バイパスを越えて幼稚園児が通う。危険を考察。

できる交通安全の原則ですが、もしもの場合に備えたハード整備も欠かせません。

市内で2地域の交通安全対策について関係者と意見交換する機会がありました。一つは小学校の通学路を中心とした子どもたちや地域住民の交通安全対策への取り組みと、見通しの悪い狭隘な交差点における交通事故の防止についてで、いず

れも地元住民と行政との間で長い時間をかけて協議を重ね、少しずつ解決に向かって努力されていることが共通であり、そのご苦労には頭が下がる思いです。

先ほども触れたように、最近の全国で発生している交通事故を受けて、対策をさらに前進させるために、整備が整うのを待つばかりでなく、住民や運転者も参加して今からでもできる取り組みはないかなどを模索する行動に、事故防止に向けた一層の危機感を抱きました。



**小学校の通学路の安全対策では**、地域内に新たに開発された大区画分譲地や大型店舗への域内外からの来客による交通量の増加対策で、「ゾーン30」などの域内制限スピード規制の設定を求めています。実現するためには、道路の一つ一つに道路管理者による環境整備が必要とされ、関係機関と連絡を取りながら進めていますが、財政的な背景もあり、進んではいるものの、まだまだ時間を要します。地域からはもっと効果的な取り組みについて案はないか求められたのですが、他地域での経験も踏まえ、助言をさせていただきました。

グリーンベルトがあっても、車のすれ違いで危険が潜む。

地域のリーダーからは、行政に頼るだけでなく、住民が取り組むべき安全対策について具体的な行動指針を列举し、地域の関係会議にかけて了承を得て、チラシとして配布することなどが説明されました。その内容は、先の大津などの事故事案に基づくものであり、まさに交通安全は自らが進んで取り組むべきものとの思いが込められていました。

**狭隘な交差点整備では**、30年にもわたる改良計画が遅々と進まない中、交通事故の発生数は深刻な事態に陥り、行政、警察、地元民が一体となった柔軟な改良計画に変更し、地権者の理解を得て大きく一步を踏み込むことになりました。

交通安全を総論として否定する方は一人もいません。しかし、その実現のために、私有地を提供する個人の立場になる

と、様々な思いが表面化してきます。それを踏まえて、落としどころを探り、理解と協力を求めることは、並大抵のことではないことを実感しています。その対象者が複数となれば、なお一層、足並みをそろえることは困難です。



今回、ようやく、その見通しが立ち、地権者をはじめ行政や地域関係者の努力が実ることになりそうです。地元と行政の橋渡しを担ってきた立場として、ほっとしています。しかし、ハード整備にメドがついたとしても、運転者やそこを利用する住民一人ひとりが、ソフト面での交通安全に対する思いを高め、行動していくことが最も重要であることは、変わりません。

## 5. NPO法人の課題とこれから

春の森づくり県民大作戦が開催され、会場の一つとなった富士市西部地区まで出掛け、参加者ともに汗を流しました。

主催したのはNPO法人で、富士川の右岸(西側)地域の山間



森づくりの後は、子どもたちに木工細工を教えた。

部を舞台に活動している市民団体です。会員構成は高齢者を中心に、男女の混成チームです。森づくりはもちろんのこと、子どもの頃からこの地域で育った方がほとんどで、地域の情報や地域のあらゆる資源を使った楽しみ方を熟知しており、その経験を次世代に繋げていこうというのが活動の趣旨です。活動には会員のほかに、地域在住の子どもたちが参加し、森づくり体験の後には、森の恵み、山の恵みを楽しめる体験メニューも用意され、女性会員が作った地元の食材を使ったお昼は、最高のおもてなしとして喜ばれていました。

森づくり県民大作戦は県の呼びかけによるもので、春と秋に開催されています。私は、この市民団体からのお誘いを受け、10年近くの間、時間が許せる範囲で参加してきました。当初から見ると、会員の顔ぶれはほとんど変わらず、その分だけ歳を取っています。一方で、新会員の顔は増えているものの、現役を引退する間際の方などで、さらに若年会員の参加が望まれています。



活動が活発なNPOの総会風景だが、高齢化が目立つ。

最近、環境活動に関わる、これまで大きな功績を残してきた二つのNPO法人が、法人格を返上することを聞きました。

会員の高齢化などのほかに、行政から求められている運営上必要な書類作成などの負担が主な原因であり、本来の活動に投入できるマンパワーが足りなくなるというものでした。

行政は、組織運営に必要な財源確保や運営上の専門的な知識を必要とする書類作成などを支援する対策を講じていますが、その効果が十分得られていないようにも感じます。

身の丈に合った組織運営は重要なことですが、NPO法人のあり方を再度見つめ直す時期に来ているのかもしれない。公の場で議論してみようと思います。

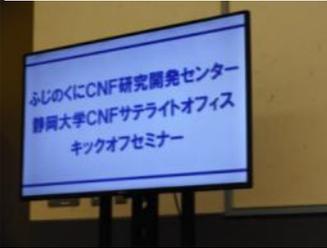
## 6. 議会外の視察・研究報告 農業振興、新産業振興、防災、文化観光



島田市にある「ふじのくにお茶ミュージアム」を会場に開催された「世界お茶まつり」にて。茶振興は待ったなし。



県農業の明日を拓く研究施設「AOI-PARC」を、女性団体の皆さんと視察。AIとICT活用に期待が膨らむ。



CNFの新たな2拠点が富士市内に誕生。静岡大学も市内に初めて進出し、産業化が加速。中小企業の参加が課題。



水防団に同行し、雨期に入る前の市内水害発生懸念箇所の巡視を実施。県や国に課題を伝えるのが私の役目。



愛鷹山麓の区有林下草刈りに参加。想像を超えるシカの食害に衝撃を受けた。鳥獣被害は深刻。



静岡県富士山世界遺産センターで開催された「富士山かくや姫ミュージアム」の企画展を視察。

## 地域の課題と進捗状況（各地の要望から）



田子浦中丸地区の防潮堤には、防風林が設置されていない場所がある。塩害防止に向けて、関係機関と協議。



田子の浦港東側、鈴川海岸防風林の保全是、地元住民の手で行われており、毎年、植林を実施している。



須津川の新幹線下流部は、予想を超えた土砂が堆積し、豪雨時に土砂決壊が危惧されたが、浚渫が決まり安堵。



一色の大富士ゴルフ場付近から新東名下までの県道は、ブレーキ故障による事故が多発。待避所などを増設予定。



田子の浦小学校区の宅地造成などによる車両増加で、児童が交通事故に巻き込まれる懸念を払拭する対策が進行。



毎年恒例の愛鷹山中にある地元区有林の下草刈り作業に参加。伐期を迎え、有効活用を検討する必要あり。



水防団の巡視で北松野地区を流れる、有無瀬川を視察。急峻で短距離を流れる河川は、氾濫の常時観測が必要。



須津地区うなぎや前の根方街道は狭隘で側溝上を通る自転車や歩行者に危険が及ぶ。県と改修に向け協議。

### ◆6月議会で決定した国へ提出される意見書

- ① EVや自動運転化等技術革新への対応の促進に関する意見書
- ② 子どもの適正な医療の確保に関する意見書
- ③ 豚コレラ対策の強化を求める意見書
- ④ 災害時における透析医療体制の確保を求める意見書
- ⑤ 児童虐待防止対策の確保のさらなる強化を求める意見書

### ♥ホットなつばき

県議会議員3期目が始まるにあたり、「らしんばん」の紙面もリニューアルしました。ブログもほぼ毎日更新し1500回を迎えました。日々の議会活動をこれからもリアルタイムに発信していきます。

### 県政相談窓口 ♥お気軽にどうぞ！

地域の課題、道路・河川等の整備などについてのご相談窓口です。ご相談いただいた内容については、必要に応じ関係機関と調整しますが、内容に応じてお時間がかかることもありますので、ご容赦下さい。

発行者：静岡県議会議員 鈴木すみよし事務所

「県政相談窓口」および「らしんばん」連絡先

静岡県富士市比奈1418番地の2〒417-0847

☎0545-34-0683 FAX.0545-38-0070

メールアドレス himena@tokai.or.jp

ホームページ <http://sumiyoshi.info/>

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/sumiyoshi1956/>

